

# 戦争はいかに終結したか、 いかに終結するか

防衛省防衛研究所主任研究官

ちぢわ やすあき  
千々和 泰明

- \*NSC立ち上げ経験が発端
- \*有事には出口戦略が必要
- \*戦争終結のジレンマ
- \*根本的解決の代償
- \*妥協的和平のリスク
- \*ウクライナ戦争の難しさ
- \*冬戦争型の可能性
- \*有事の終結を考えよ
- \*劣勢側の抵抗で変化
- \*終結議論が抑止力に



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

本日は、足元の悪い中ご参加いただきましてありがとうございます。本日は、防衛研究所の千々和先生においでいただきました。ご存じかと思いますが、昨年の石橋湛山賞の選考で受賞に選ばれたうちのお一方でございます。

『戦争はいかに終結したか』というタイトルで中央公論から本が出ておりまして、これが受賞の対象になりました。

ウクライナ戦争が始まってもうすぐ1年になるわけですが、ほんの数日間で占拠して有利な戦争終結を目指したプーチンの戦略がまったく絵に描いた餅になって、その後どうやって戦争をやめたらいいか、今、まったく闇の中にあるという状況でございます。先生のご

著書の中にも、日本が第2次大戦で戦争をやめられないままたいへんな被害を引き起こしたという事例を詳しく書いておられます。そういうことで、今日は最も現実的なテーマであり、これからも台湾有事その他いろんなケースでわれわれが最悪の事態を想定しなければいけないかもしれないということで、このテーマをじっくりお聞きしたいと思います。

それでは千々和先生、よろしくお願いたします。（拍手）

## NSC立ち上げ経験が発端

千々和 たいだいまご紹介いただきました、防衛研究所主任研究官の千々和でございます。本日は、柴生田理事長をはじめ経済倶楽部様のこ